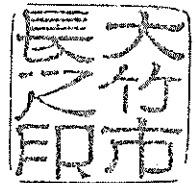




大竹市長
大竹市
大竹市長 入山欣郎
(都市環境部監理課)

国土交通省道路局長 様

大竹市長 入山欣郎
(都市環境部監理課)



中期的な計画の作成にあたっての意見について

現在、国に置かれては道路行政の原点に立ち戻り、重点的に取り組む分野を絞り込み、積極的に取り組むと聞き及んでおります。大竹市としても、厳しい経済情勢の中、高齢社会における道路の役割を再検証する必要性は十分認識しております。

しかし、大竹市のように公共交通機関を十分整備することができない地方においては、交通手段としての自動車への依存度は依然高いものがございます。また、反面、そのための道路整備は依然として低い水準でございます。

こうした前提の上で、大竹市としては道路政策の重点化を進める際に特に優先度の高い政策として「国際競争力の強化」、「地域間の交流」、及び「安全・安心の確保」、に重点をおいた政策展開をされるよう要望いたします。

また、あわせて、道路特定財源の見直しを進められているとも聞いておりますが、地方においては依然として不十分な道路を整備するための財源として、今後も道路特定財源の堅持をお願いするものでございます。

以上誠に、簡単ではございますが、大竹市から国土交通省道路局長様への要望と提案とさせていただきます。今後とも地方都市の発展に対し、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 高規格道路・一般国道・県道などの幹線道路の整備

大竹市は広島県の西端に位置し、広島都市圏を構成する都市として、今日まで発展してきました。地形的には広島湾岸地域の特徴に見られますように、平地部が少なく、海岸線の近くまで急峻な山が迫っています。このため、周辺市町との連絡は、国道2号が主体となっています。しかしながら、国道2号の大竹市から廿日市市の間は一部を除き大部分が狭隘である上、海岸沿いの区間は、台風の襲来時には越波により通行止めになる状態にあります。

このような状況の中、本市としては、国の主要幹線である国道2号については、産業経済活動や地域間の交流のみならず、災害時や救急医療施設との交通手段の確保のためにも、早急に道路整備が必要と考えております。

国道2号バイパス「廿日市大竹道路」の早期取り組みや、岩国大竹道路の早期完成、現道の改修整備、防災対策等を要望します。

また、市民生活の場として、快適な市街地の形成を図るため、都市計画道路の整備を推進していますが、厳しい財政事情を考慮していただき、更なる国からの財政支援を強く期待するところです。

2. 港湾アクセス道路の整備

大竹港東栄地区は、大竹市の主要産業である化学工業、パルプ・紙製造業の物流の拠点となってきましたが、船舶の大型化や危険物の集約化、あるいは国際物流も視野に入れた港湾物流機能の強化を目的に、平成5年から整備を開始し、平成17年度末に完成したところです。

この結果、大竹港東栄地区は、既存産業に対する基盤整備が図られるとともに、国道2号、国道186号、山陽自動車道路I.C、貨物鉄道駅に近接していることから、物流事業者も注目し、その周辺に進出するなど広島湾の西の物流拠点としての期待が高まっているところであります。

しかしながら、近接しているにもかかわらず、これらの陸上輸送と結節する道路が不十分な状態にあり、現状ではせつかくの港湾機能が発揮されない恐れがあると思っています。

そのためには、国道186号の起点を国道2号の接点から大竹港東栄地区まで延伸することが港湾と陸域との物流ネットワークに不可欠と考えています。

現下の仕組みでは、国道の起点を変更すること(国道2号を越えての延伸)は難しいとの説明は受けていますが、地域の事情を考慮した柔軟な対応が可能な仕組みを構築されるよう要望し、その上で、当該道路の整備をお願いするものであります。